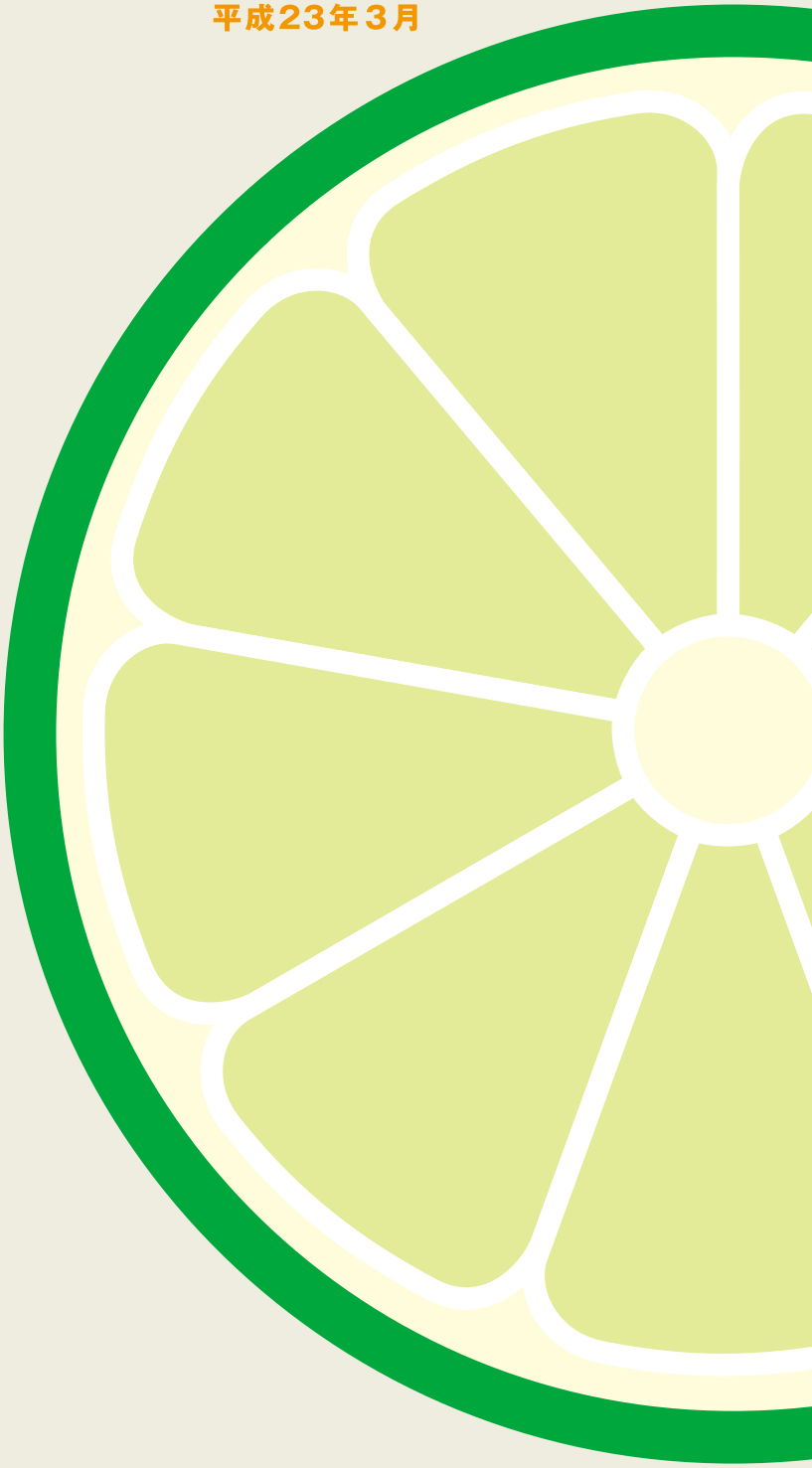
第４次
神山町総合計画

平成23年３月



第４次神山町総合計画
発刊にあたって

神山町長 後藤　正和

我が国は 2004 年をピークに人口減少社会へと移行し、50 年後にはおよそ 3 割減少し 9000 万人を下回る見込みであります。さらに、近年の世界的な経済危機や不安定な政権運営などを見ると、町の将来設計に不安を抱かざるをえません。

このような状況の中、神山町においては過疎化による少子高齢化問題、集落の維持管理機能の低下、地域医療の危機など地域全体の活力が失われるような課題が山積しています。一方で、新府能トンネルと養瀬トンネルの開通による主要道路網の整備、光ファイバケーブルによるＣＡＴＶと高速インターネットなどのハード整備と同時に、アートをきっかけとした交流促進、しだれ桜の植樹による地域資源の充実など、住民の手によるまちづくりが盛んに行われるようになってきました。

本計画書では「元気がキラリ　咲き誇る　神山町」というキャッチフレーズのもと、町民に元気があふれ、生きがいと誇りが抱けるまちづくりに向けた計画が描かれていますが、夢と課題を共有しながら着実な取組みを進めてまいりたい所存でございますので、みなさまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本計画書策定にあたり、アンケートにご協力いただき、貴重なご意見、ご提案をいただきました町民の皆様、様々な視点から熱心にご審議いただきました総合計画策定審議会委員の皆様に心より感謝申し上げ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

平成 23 年 3 月

第４次
神山町総合計画　CONTENTS

第Ⅰ部　総　論

第１章　計画策定の趣旨　1

第２章　計画の位置付け　2

第３章　計画構成・計画期間　3

第４章　神山町を取り巻く現状　4

1．位置・地勢　4
2．人口・世帯・就業構造　6
3．地域活動・交流活動　10
4．行財政運営　11

第５章　今後のまちづくりの課題　13

1．町民の意向　13
2．まちづくりの現状と今後の課題　18

第Ⅱ部　基本構想

第１章　まちの将来像　23

第２章　まちづくりのフレーム　26

1．将来人口推計　26
2．町土保全の方針　28

第３章　10 年間のまちづくり方針　29

1．ヒトが動かす力強い産業づくり　産業振興　29
2．郷土を愛する心づくり　教育･文化　31
3．支え合う心づくり　保健･医療･福祉　32
4．美しい自然と快適空間づくり　環境保全･生活基盤　33
5．アイデアが光るまちづくり　協働･行財政　34

第４章　施策体系　36

第Ⅲ部　基本計画

1　産業振興　37

1－1　農業の振興　37
1－2　林業の振興　41
1－3　観光・商工業の振興　44
1－4　起業支援・コミュニティビジネスの振興　48

元気がキラリ 咲き誇る 神山町

2　教育・文化　50

2－1　学校教育の推進　50
2－2　生涯学習・文化・スポーツ活動の推進　53
2－3　人権尊重社会の実現　56

3　保健・医療・福祉　58

3－1　保健・医療の充実　58
3－2　地域福祉の充実　60
3－3　福祉の充実（子育て･高齢者･障害者･社会保障）　63

4　環境保全・生活基盤　67

4－1　環境保全・景観形成・エネルギー政策の推進　67
4－2　社会基盤の整備　71
4－3　地域安全の充実　75
4－4　癒しと健康の空間の創出　78

5　協働・行財政　80

5－1　交流活動の充実　80
5－2　町民・地域活動の充実　82
5－3　協働のまちづくりの推進　84

第Ⅳ部　参考資料

1　神山町総合計画審議会　諮　　問　88
2　神山町総合計画審議会　答　　申　89
3　神山町総合計画審議会　規　　定　90
4　神山町総合計画審議会　委員名簿　92
5　神山町総合計画策定委員　名　　簿　93
6　神 山 町 総 合 計 画　策定経過　94
7　かみやま未来会議　96

【資料】まちづくりのための町民意向調査　101 ― 144

第４次
神山町総合計画

［用語］

•本計画には「まち」と「町」という表記がでてきます。
ここでは、町民、地域、行政など、本町に関わるすべてを表現する際には「まち」を、行政組織としての役場や行政区域を表現する際には「町」を、それぞれ用いています。

•本計画には、「協働」という表記がでてきます。
意味は“同じ目的のために、協力して働くこと”です。
主にまちづくりの分野で「町民と行政との協働」といった表現をすることから、本計画でも「協働」を用いています。